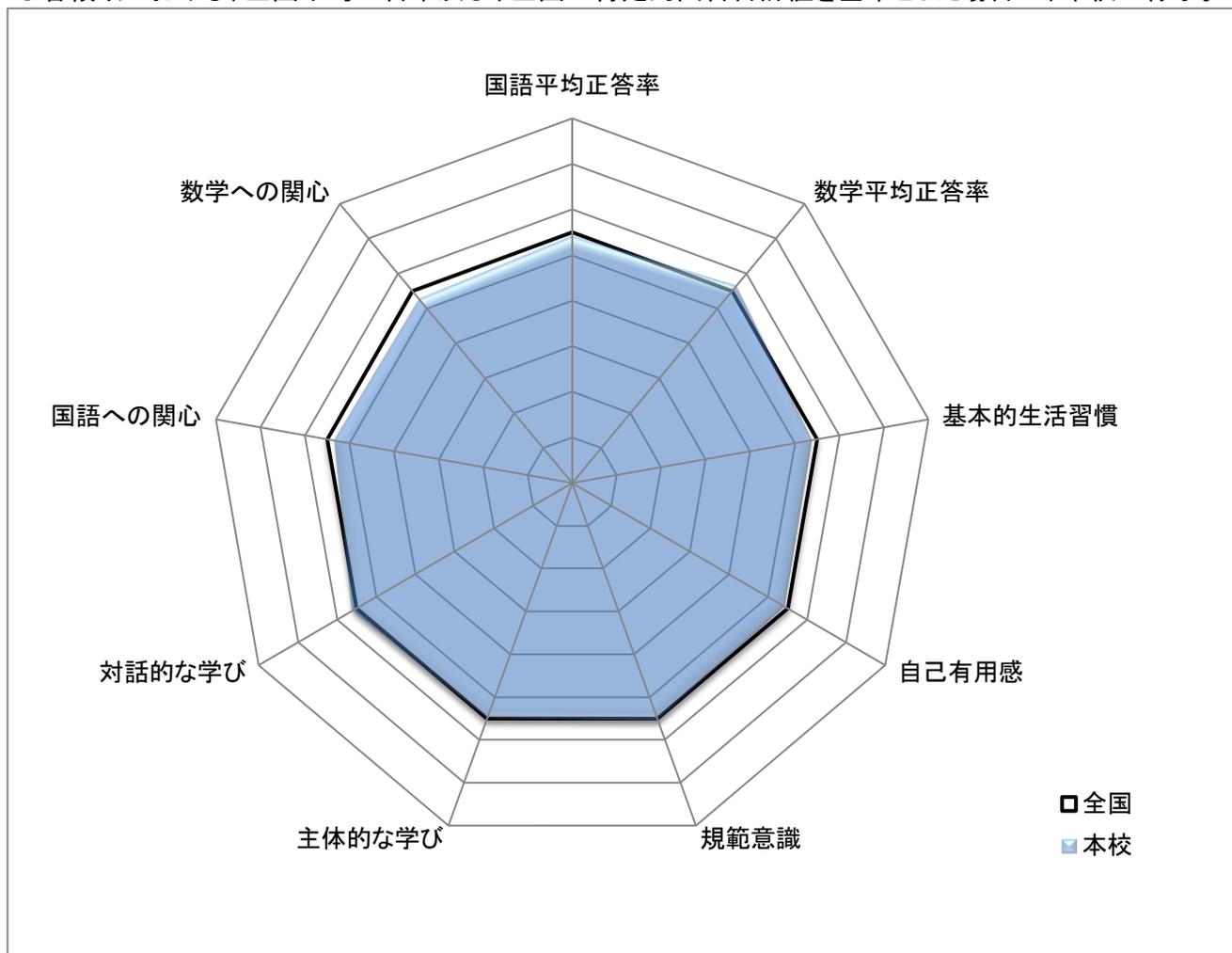


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

規範意識や対話的な学びについては肯定的な回答が大半を占めている。これは本校で推進している「生活改善週間」や「学び合い授業」に生徒が意欲的に取り組んでいる結果と推測される。特に「いじめ」「人の役に立ちたい」といった他者への関心は強いものの、自己有用感は高くないという結果から、本校の生徒にとって自尊心や自己肯定感を高める取組が必要であると考えられる。また授業に対する関心が最も低いことから、学習面でのモチベーションアップを図ることが重要である。

《授業改善のポイント》

本校の生徒の特性から、学習に対する関心や達成感を醸成することが必要不可欠である。本校で今年度取り組んでいる「瑞三学びプロジェクト」を継続していくとともに、教師の授業力アップを目指す。そのために以下の3点を工夫したい。

- ①明確なゴールの設定
- ②「学び合い」授業の深化。
- ③「わかった」を実感できる授業。

これらを基本としながら、生徒が学習に対して「嫌悪感」を抱かないような課題設定をするなどの授業改善を行う。

《チャートの特徴》

総合的にみると、全国平均とほぼ同じ結果となっている。細かく見ていくと、規範意識や基本的な生活習慣は身に付いているが、学習に対する関心は低い。一方で主体的で対話的な学びは全国平均を超えている。このことから、高い規範意識を持ち合わせているために、モチベーションは低いが授業には主体的に取り組まねばならないという気持ちで参加し、本校で推進している「学び合い」により「対話的な学び」に対する達成度が高いのだと考えられる。しかしながら、結果(点数)に直接的に結びつかなかったり、「わかった」という経験が少ないことが原因の一つとなっていると考えられる。

《家庭・地域への働きかけ》

その日に学んだことは、その日のうちに復習するなど、家庭学習の時間を作ったり、地域の方の見守りの中で学習スペースを確保することができるように学習が習慣化されていくと考えられます。